

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月27日

札幌市長 様

提出者

住 所 札幌市中央区南19条西9丁目2番28号

氏 名 株式会社 スウェーデンハウス北海道支社

支配人 川上宏治

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 011-513-1881

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社スウェーデンハウス北海道支社
事業場の所在地	札幌市中央区南19条西9丁目2番28号
計画期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合工事業
② 事業の規模	400百万円
③ 従業員数	807人(北海道支社:120人)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	建設工事 → 収運運搬業者 → 処分業者 → 再生処理 → 最終処分

(日本工業規格 A列4番)



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

産業廃棄物処理委員会の準備・配置

- ・廃棄物の発生抑制、再生、適正処理等を計画的に進める上で必要な事項を検討する。
- ・産廃処理業者リストの見直し
- ・産業廃棄物マニフェスト交付・管理状況確認

支配人（委員長）

↑

工事部長

↑

工事グループリーダー

↑

現場管理者

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別添	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ギャングネイルトラス採用による現場端材削減 ・プレカット ・梱包材の簡素化		
① 現状			
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別添	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・現状継続		
② 計画			

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 木材、金属、廃プラスチック、石膏ボード、段ボール等 (リサイクル) を濡れない様に分別
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現状継続

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別添	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・収集運搬・処理業者と委託契約を締結するのに当たり、事前の現地確認するとともに、委託後に定期的な確認を行う。 ・再生利用が可能な廃棄物については、積極的に再生利用を推進する為、委託先についての情報収集を行い、推奨する。		

(第5面)

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別添	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・現状継続 更に適正な委託先の選定にあたっては、優良産業廃棄物処理業者に関する情報、公開される産業廃棄物処理施設の維持管理情報を活用する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請け完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模がわかるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項のすべてを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別添
札幌市
《計画》

前年度の産業廃棄物発生量		種類	廃プラスチック類	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・陶磁器くず	がれき類	管理型混合
		発生量	130.20 t	111.66 t	874.93 t	193.39 t	138.28 t	619.07 t	14.77 t
本年度の目標	①産業廃棄物発生量	発生量	156.24 t	133.99 t	874.93 t	96.69 t	165.93 t	495.25 t	17.72 t
	②自己直接再生利用量	量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t
	③自己直接熱回収量	量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t
	④自己中間処理減少量	量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t
	⑤自己埋立処分又は 海洋投入処分量	量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t
	⑥全処理委託量	量	156.24 t	133.99 t	874.93 t	96.69 t	165.93 t	495.25 t	17.72 t
	⑦優良認定処理業者 への処理委託量	量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t
	⑧再生利用業者への 処理委託量	量	154.67 t	133.99 t	874.93 t	96.69 t	82.96 t	495.25 t	8.86 t
	⑨認定熱回収業者への 処理委託量	量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t
	⑩認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	量	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.00 t